



しののめだより

令和4年度第23号
令和5年3月1日発行
富士東高校情報交換ひろば

「しのめ探究」成果発表会～2年生～

本格的な春の訪れ。今日から弥生です。2月16日(木)に行われた「しのめ探究」成果発表会では、55グループがそれぞれの探究の成果を発表しました。1年生の応援も加わって、大盛況でしたね！



全ては載せられなくてごめんなさい！ここでは、**応援コメント数の多かったもの、5つの視点**（課題設定の理由が明確か/SDGsとの関連が示されているか/有効な解決策が提示されているか/情報源が明示されているか/発表方法は工夫されていたか）の**ポイント平均点が高かったもの、県大生の評価が高かったもの**などに着目して、**7グループをピックアップ**して御紹介します。（掲載順はゼミの番号順です。）

A4 ジェンダー平等

男子のスカートはおかしいのか？

(H.U.さん、T.N.さん、Y.M.さん)

課題設定の理由

女性の権利向上や男女平等のための運動から「逆差別」が生まれていることを知り、まずは「女性が社会的に弱い立場に置かれていること」を課題にし、そこから「逆差別」について新たな解決策を提案しました。

課題解決のプロセス・考察

私たちは班が決まったときに3人ともジェンダーの中の全く違うフィールドについて調べていました。そのため、3人のフィールドの中に共通点を見つけようという話になり、個々に調べを進めました。途中F先生からアドバイスをいただき、既存の解決策とその批判内容について先に決め、そこから課題の設定と新しい解決策の提案内容を決めました。新しい解決策は課題と既存の解決策への批判どちらも解決できるようにすることを心がけました。それぞれ書籍やニュース、当事者へのアンケートを元に解決策を考え、説得力も重視しました。

振り返り

3人とも調べていたフィールドが異なったこともあり発表内容を決めるところから大変でしたが、無事に発表を成功させることができよかったです。ジェンダー平等は「昔からの固定概念」や「無意識に起こる差別」と解決までの壁が多いです。その他にも今回の探究で「逆差別」という問題についても触れることができました。ますます一筋縄では行かない問題ばかりですが、すべての人が自分らしく暮らせる、平等に暮らせる社会のためにこれからも探究を続けられたらいいと思います。

男子のスカートはおかしいのか？

問題の所在
女性が社会的に弱い立場におかれていること

既存の解決策
アファーマティブアクション
例 女子枠入試
フェミニズム等の女性権利向上運動

逆差別 (例: TERF等)
(例: 女子のスカートしか履けない)

新たな解決策
選択肢を広げる
例 スカート・スラックスの選択肢導入
(私服制履の選択も良い)
制服における性別欄入選択肢
アファーマティブアクションは平等か? 公平か?
実施目的の適切な理解を推進

まとめ
長期的に見た目標解決が必要、また多数派の
この多数の人の無意識の偏見を変えらる一歩になる。
(出典) ユニバーサルデザイン(新編) 学芸文庫
https://www.nitech.ac.jp https://www.mori.jp

●スカートの選択肢が広がっているのが分かった●公平や平等の違いなど細かいところまで調べてとても分かりやすかったです●選択肢を広げるということでしたがそれを実現するためにどのような行動が必要だと思いますか？●グラフの他にも画像を使用して、良かったと思った●自分も違和感を覚えていたところについて発表していたので少しずつ意識が変わっていきると良いと思った●題名の真意が知れてよかったです●性別問題は女子に多く注目していたんだなと思いました●1つの問題を解決するとまた新たな偏見が生まれてしまうのだなと思いました●ハキハキ喋ってくれてとても聞きやすかった。LGBTの人から実際に性別の選択にその他の欄がほしいという声が多くあるということに驚いた。差別という意識がなくても大丈夫な世の中であってほしいと思った●県大生との会話のなかで今の時代ならではの解決策を知り、興味深かったです●男子のスカートという発想が僕にはなく、またそういう人も多いと思うのでまだ性別の問題は多いなと感じさせられた●まだジェンダーに対する偏見が多く存在する世の中で、男性がスカートを履くというテーマが気になり見に行きました。女性はズボンを履くのになぜ男性がスカートを履くと白い目で見られるのかは理解できませんが、この偏見が解消できるのはまだ何十年も先なのかなと思いました●今はファッションとして男性でもスカートが取り入れられているけれどトランスジェンダーとして考えるとまた難しいと思いました●性別をグラデーションとして捉えるという考え方がいいと思いました。●どんな格好でも尊いと思える世界になるといい

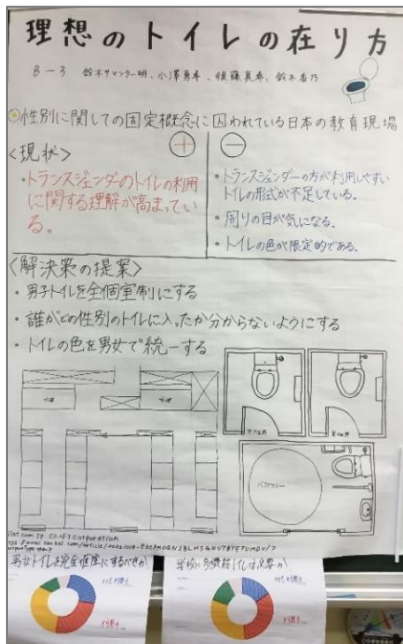


県大生から
専門的なワードをわかりやすく伝えてくれた。そのようなスキルはとて必要！(Mさん)

B3 ジェンダー平等

理想のトイレの在り方

(K.S.さん、S.S.さん、Y.O.さん、M.G.さん)



課題設定の理由

先日東高の一部のトイレの工事が終了しました。新しいトイレは男女別の色で壁が構成されています。私たちはその作りに違和感を覚えました。

日本ではLGBTQ+について固定観念を改善しようとする声が上がられるようになってきました。人は性に関する固定観念が7歳までに定まるとされています。より固定観念を改善するには小学校などの教育機関から知識を伝えていく必要があります。そこで教育機関のあるべきトイレの姿について探究しようと考えました。

課題解決のプロセス・考察

男子トイレを完全個室にすること、男女のトイレの入口をひとつにまとめること、多機能トイレの設置をすること、全てのトイレに音姫を設置すること

振り返り

トイレに関する問題はとてもセンシティブであり、全員が使いやすいトイレにすることはむずかしいことです。しかし、本来のあり方について考えることで性の共存の難しさや、あらゆる方面からの考え方の共存をどう対処するのかを深く考えることができました。

●トイレという着眼点が最高！！●女性に対しても優しい社会について意見を述べているのがいいと思った●身近な問題について丁寧に考えていくことの大切さが分かりました●性の多様性とトイレの関係について考えることが出来ました●トイレを一つにする事の利点と問題点がわかり、考えさせられる内容でした。多機能トイレは設置すべきだと感じました●新しいトイレのあり方の発想が素晴らしかったと思います●質問に堂々と答えていて格好良かったです●観客を取り込んだ発表だった

応援コメント

B5 児童の権利

途上国の児童婚・早期婚

(Y.O.さん、Y.K.さん、K.S.さん)

課題設定の理由

発展途上国の子供たちの現状を見た時に、インドの人は結婚する時に女性から男性へお金を支払わなければいけない「ダウリー制度」があって、親がそのお金を少なくするために小さい時に結婚させてしまう現状があること、南アジアやアフリカの今20~24歳の女性で18歳未満で結婚している人が1000万人を超えていることを知り、問題意識をもったからです。

課題解決のプロセス・考察

インドに着目しました。既存の解決策を見た時、「ダウリーに対して禁止法が作られているのに強制力がなく無力化されている。」「マイクロクレジットという、低金利で条件をつけてお金を貸し出すという制度があるが、お金を返すために他のところからお金を借りてしまう負の連鎖が続くから意味が無い。」というように、解決法ではなくむしろ悪い方向に向かうようになっていることが分かりました。

そこで自分たちは「お金を寄付する」のような直接的なものではなく、遠回りをして、生活水準の底上げを目指したいと考えました。

①BOPビジネスを行う。

BOPとは年収ピラミッドの最下層の人達のこと。インドは特に多い。BOPビジネスとは、ある企業がBOP層に有益な製品、サービスを提供すること。SDGsからも重要性が高いと考えられていて成長が見込まれる。また、協力した企業の評価やイメージも上がり、win-winな関係になる。

②インドに企業を置く日本の会社と協力する。

イギリスの会社で石鹸を提供したところ衛生面での向上があり、病死の人が減り、働ける人が増えて稼ぎやすくなったという事例があったことから、LIXILや、大成工業株式会社などが水回りや生活排水の処理をしていて、同じように衛生面に良い効果が得られる。

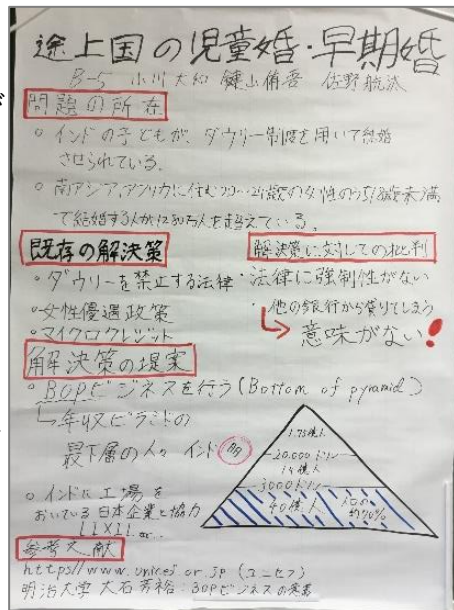
振り返り

自分たちでは限界がありましたが、先生、大学の教授、大学生の協力により新しい改善策や、考え方が広まり、探究を完成できました。大勢の前で発表する機会がなかったのが貴重な体験になりました。

県大生から
資料を指しながら発表していて良かったです！
(Mさん)

●マイクロクレジットという政策を批判として用いていて具体的でよかった●遠回りだけど筋の通った解決方法だった●グラフが複数使われていることで説明がより理解でき、政策名や政策の詳しい説明も記憶に残った●世界には解決しなければいけない問題がたくさんあることを知った●解決すべき問題と関係性が明確だった●話している人かすごく上手で、すごく前向きに話をとらえることができた

応援コメント



D5 医療

日本における医療従事者不足

(Y.S.さん、A.I.さん、M.W.さん)

課題設定の理由

日本の医療従事者は増えているが、新型コロナウイルスや高齢化などの影響で需要に供給が追いついていないという現状があり、この問題の解決が必要だと思いました。

課題解決のプロセス・考察

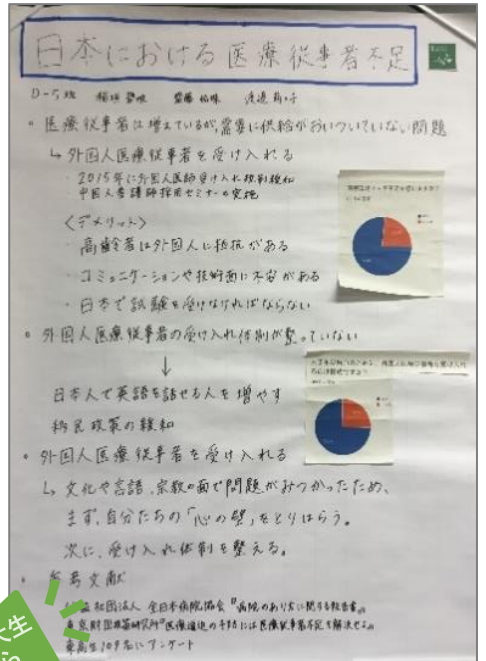
解決方法として、外国人医療従事者を受け入れるという方法があります。しかし、日本で働きたい人がいることに対して受け入れ体制が整った病院が少ないということがわかりました。体制を整えるために日本人で英語を話せる人を増やす、宗教や文化の理解など、まずは私たちの意識を変える必要があることがわかりました。

振り返り

問題を解決するとき、医療に関係ない面の問題も解決しなければいけないとわかり、解決案を考えるのに苦労しました。

●今の医療現場の状態、外国人医療従事者について知ることが出来た●外国人労働者よりも私たちの気持ちを変えていくことが大切だということに気付かされた●単に給料を増やしたり、AIを導入する事も一つの手だと思うけれど外国人医療従事者に注目していたのがすごかったです●心の壁があるのは確かだと思うから無くして行けたらいいなと思いました●日本が100床あたり18人しか医師がいなくて医師不足なのは初めて知りました●日本をイギリス、アメリカなどと比較し、具体的な数値を見せることによって問題の重大さを正確に示していた●細かい分析やアンケート結果からわかりやすく考察されていて、すごいなと思いました●情報の出典元や説明や解決策が発表としてとても素晴らしいものだなと思いました●生徒内だけでなく保護者にもアンケートをとって、情報が多くわかりやすかった

応援コメント



最初に現場の視点と国際比較の視点から問題を説明していて良かったと思います。外国人医療従事者を受け入れるときの研修内容とかを詳しく調べても面白かったかなと思います。患者に対する接し方とかかなり違うらしいですよ。黒板に大きく百床あたりの医師数を書いていたのは好感！（Kさん）

県大生から

G2 不平等

「親ガチャ」により一人一人の将来の格差が固定化されてしまう問題

(M.T.さん、S.M.さん、F.T.さん、K.M.さん)

課題設定の理由

デジタル社会が進んでいる今、ネット界隈での若者の「親ガチャ」による格差の訴えが深刻化しているためです。

課題解決のプロセス・考察

親ガチャのあたりはずれの現状から、親ガチャと騒がれる原因は親にあると考え、解決策として両親に教育研修を受けさせるという結論に至りました。

振り返り

「親ガチャ」という言葉の広がりから、あたりはずれが存在するため生まれる問題や事例までを知った上で、自分たちで解決策を編みだすことができました。

●あまり思いつかない内容だったから、聞いていて面白かったし楽しかった●絵を使っていてわかりやすく内容もとても面白い内容だった●親ガチャについて今まであまり知らなかったことが多かったけれど、親ガチャについてのアンケートや改善方法の説明を通して色々知ることが出来て良かった●「親ガチャ」というテーマが面白く、子ども・親両方の意見がありわかりやすかった●親ガチャよりもどの国に生まれるかのほうが重要性が高いと思いました●親ガチャという選択できない状況で親のせいにするのも悪い複雑な気持ちになった●親ガチャという概念そのものがよくないと思った●親ガチャの話聞いてて、毒親はほんとうにひどかったんで自分は良い親に恵まれていると思った●産んでくれた親のことを大切にしたいと思います●多くの参観者を前にしても堂々と発表していて立派でした。多くの方が興味をもつテーマ設定ができたことと、ポスターだけでなく小道具が工夫されていたことがよかったです●題材も内容も興味深い内容で何となく知ってたことを説明してくれてわかりやすかった

応援コメント

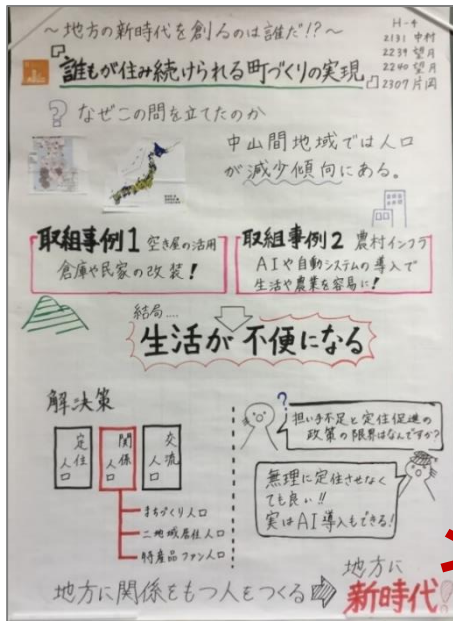


県大生から

情報・データを踏まえて問題の深刻さを明確に提示してくれています。解決策がもう少しまとまった言葉と文章だったらよかったです。策自体は非常に興味深かったです。（Jさん）

H4 地方創生

地方の新時代を創るのは誰だ？



課題設定の理由

(A.M.さん、M.M.さん、T.N.さん、T.K.さん)

私達4人は地方創生に興味があったため、地方の衰退を止めるべくこの問いを立てました。

課題解決のプロセス・考察

課題解決にあたり、まずは原因を把握し何をどのような結果になればよいのか、とゴールを明確にしました。また直面した結果に疑問を持って追求するようにしました。

振り返り

中山間地域に住む私達にとって住み続けられる町の実現は必要不可欠だと思います。まだ解決策に不足している部分もあると感じているので、反省を活かし探究を続けそれぞれの進路につなげていきたいです。

準備の段階で、すごくよく調べていた印象があります。その中で、「地方・田舎」の中にも、住みやすい地域、住みづらい地域があることに気付いており、さらに一段深い問題にたどり着いていました。大学生でも、そんなに考え、より詳しく調べようとする人はなかなかいません。私自身、みなさんの姿を見て、負けぬように頑張ろう！と思いました。また、田舎から、「誰もが住みやすい街」という言い替え、定義付けをしていたところは、私には考えられない、みなさんだからこそ提示できることだと感じました。私が最後に行った時から、この発表を比べて、特に解決方法に関して、すごくレベルアップしていて驚きました。「関係人口」は今まで考えたこともなかったもので、私も勉強になりました。しのため探究の時間に、みなさんと一緒に、地方の田舎について話し合えて、とても楽しかったです。ありがとうございました！（Sさん）

- 過疎地域がそのままになってしまうのではなく、「関係人口」増加によって住み続けられる街が増えたら良いなと思う
- 地域おこしに興味を持てる内容で、良かった
- 大学生に質問にしにくいなど、解決案に具体性があったおもしろかった
- 自分のことだと思って聞きました
- 過疎地域に住むことの難しさは住みにくいことや地域の人との繋がりだと知りました
- 無理に大きなことをしなくても、小さなことを積み重ねることで過疎化を防ぐことができること知って驚きました
- 地方に住み続けるように少しでも興味を持ってもらうことが大事だということがわかりました。
- 原稿を読むのではなくやってくれたので分かりやすかった
- 発表のテンポがよく、ポスターが見やすかったのでよかったです

12 資源

食べ物を「着る」ことはできるのか？

課題設定の理由

(M.S.さん、N.S.さん、K.K.さん、F.M.さん)

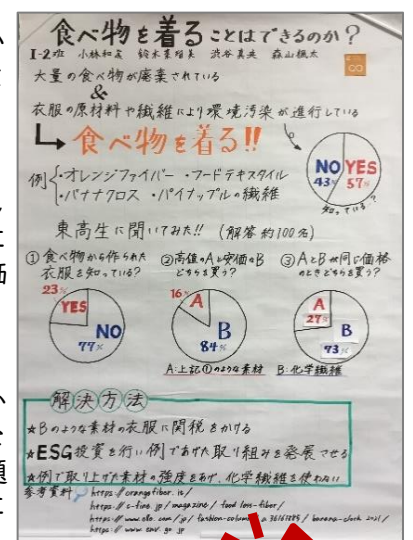
SDGs12の「つくる責任つかう責任」に分類される、大量の食べ物が廃棄されることと、衣類の繊維や原材料などが環境汚染の一部になっていることを問題として取り上げました。

課題解決のプロセス・考察

2つを同時に解決するために「捨てられる食べ物を着る」という発想に至りました。しかし、問題点として食べ物から衣服を作るにはコストがかかるので、企業に対してESG投資を行う、または化学繊維で作られた衣服には関税をかけることで価格を抑え、人々の需要を高められると考えました。

振り返り

衣服と食品という、今までは結びつけて考えたことのなかった2つの繋がりから、環境のためにできることは何か、これから先何を目指していけばいいのかなど、考察することができました。元来の考えや普通に囚われずに視野を広げ、問題の解決策を考える力が付いたと思います。今回学んだことを活かして自発的にSDGsの取り組みに参加したいです。



- 食べ物を着るという独創的な発想からは考えることが出来ないくらいすごい発表だった
- 新しい提案で環境が守れそうでした
- 服が食べ物で作られているという事実だけでなくそれについての問題点も述べられていてよかったです
- 食べ物を着るという題名にひかれた
- 食べ物で作られた服をみてみたい
- 食べ物から服を作るのはとてもおもしろいと思いました。課題も多いけど化学繊維から作られた服に関税をかけるなどの解決策は実現できそうだと思います
- SDGsにとっても関係のある話で食料と貧困について改めて危機感を覚えた
- 質問に対して直ぐに答えがでて一切詰まっていなかったのがすごいと思った